

「ワイヤレスブロードバンド実現のための周波数検討ワーキンググループ」の設置について

1. 目的

世界最先端のワイヤレスブロードバンド環境を実現するため、携帯電話等のモバイルブロードバンドの利用状況や標準化など国際的な動向を踏まえ、ワイヤレスブロードバンド向け周波数の確保のための方策を検討する。

2. 検討体制

○ワーキンググループを設置して検討

- ICTタスクフォース「電気通信市場の環境変化への対応検討部会」のもとに、学識経験者からなるワーキンググループを設置。

ICTタスクフォース
「電気通信市場の環境変化
への対応検討部会」

ワーキンググループ

○構成員(敬称略・五十音順)

伊東 晋	東京理科大学工学部教授
岩浪 剛太	社団法人デジタルメディア協会理事
大森 慎吾	デンマーク国立オールボー大学CTIF日本研究所所長
(主査) 徳田 英幸	慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科委員長
服部 武	上智大学工学部教授
藤原 洋	株式会社インターネット総合研究所代表取締役所長
横澤 誠	株式会社野村総合研究所上席研究員 (京都大学客員教授)

3. 検討課題

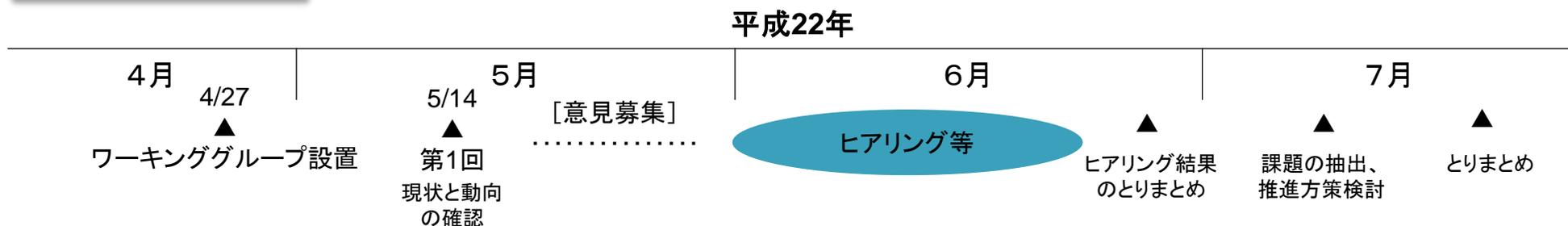
(1) ワイヤレスブロードバンドの今後の展望

- 2015年/2020年頃のワイヤレスブロードバンドのサービスイメージ、システムイメージとしてどのようなものがあるか。

(2) ワイヤレスブロードバンドを実現するための課題と実現方策

- 周波数の移行・再編
 - 周波数の逼迫や携帯電話の高度化等に対する新たな周波数の確保が必要か。
 - 必要な周波数を確保するため、どのように周波数を移行・再編していくことが適当か。
- 国際標準化・研究開発の推進
 - 国際競争力を強化するため、国際標準化の推進などどのような戦略を進めるのが適当か。
 - 新たな無線通信システムを導入するため、どのような電波有効利用技術の開発が必要か。
- 利用環境の整備
 - その他、ワイヤレスブロードバンド環境実現のための課題は何か。

4. スケジュール



「ワイヤレスブロードバンド実現のための周波数検討ワーキンググループ」の検討の背景

電波を取り巻く環境の変化

- 電波利用の成長・発展
 - ・スマートフォンなど端末の多様化により様々な新サービス・新ビジネスが普及し、ユーザーの利便性が向上
 - ・AV機器、ゲーム機などのデジタル家電のワイヤレスネットワーク接続が増加
 - ・携帯電話の普及により、誰でも簡単にネットワークにつながる時代
- トラヒックの増大
 - ・携帯電話や無線LANを利用したリッチコンテンツの流通や利用が増大
 - ・2020年までに電波利用の質・量が爆発的に拡大し、トラヒックは200倍以上に
- ホワイトスペースの利活用
 - ・ホワイトスペースを地域コミュニティの情報発信手段などに活用し、魅力あるまちづくりや地域雇用の創出など地域の活性化を促進

移動通信システムで今後予想される周波数需要

周波数割当の現状

800MHz帯、1.5GHz帯、1.7GHz帯、
2GHz帯、2.5GHz帯 → 合計500MHz幅

予想される周波数需要

2020年において現在の200倍以上と予想される携帯電話等のトラヒック増に対応するため、**相当規模の周波数の確保が必要**。

また、**米国連邦通信委員会(FCC)**は、2010年3月に議会に提出した『**国家ブロードバンド計画**』において、ワイヤレスブロードバンドは今後10年間にわたって米国のイノベーションにとって重要な土台となるとして、モバイルブロードバンド向けに新たな周波数を確保する勧告を提示。

→ **今後10年間で500MHz幅をモバイルブロードバンド向けに新たに確保**

我が国における世界最先端のワイヤレスブロードバンド社会の構築に向けた検討の必要性

- 国際的な動向を踏まえた周波数の移行・再編
 - ・ 周波数の逼迫や携帯電話の高度化等に対する新たな周波数の確保
- 国際標準化・研究開発の推進
 - ・ 必要な周波数を確保するための周波数移行・再編の実施
 - ・ 国際競争力強化のための国際標準化などの推進
- 利用環境の整備
 - ・ 新たな無線通信システムの導入のための電波有効利用技術の開発
 - ・ その他、ワイヤレスブロードバンド環境実現のための課題

ICTタスクフォース「電気通信市場の環境変化への対応検討部会」のもとに、学識経験者からなるワーキンググループを設置し、上記を踏まえた検討を行う。